

国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

DPの「コア」：知の理論 (TOK)

2015年第1回試験 — 2021年最終試験

IBディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、綿密に構成され、高い学業レベルを要求する一方で、教育的にバランスのとれたプログラムです。16歳から19歳までの生徒を対象として、大学での学問やその後の生涯で成功できる人間になるための素養を養います。DPは、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間の育成、また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

幅広く深い知識と理解を得られるようにするため、生徒は、1) 自分が最も得意とする言語、2) 付加言語、3) 社会科学、4) 理科、5) 数学の各グループから少なくとも1科目を選択する必要があります。さらに、グループ6から芸術の科目を1科目、またはグループ1～5のいずれかから2つ目の科目を選択することができます。選択した科目のうち、最低3科目 (最大4科目) を上級レベル (HL: higher level) (推奨授業時間: 240時間)、その他を標準レベル (SL: standard level) (推奨授業時間: 150時間) で履修します。これらに加えて「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service) の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する4つの主要要素について説明します。

I. コースの説明とねらい

II. カリキュラムモデルの概要

III. 評価のモデル

IV. 問題のサンプル



I. コースの説明とねらい

TOKは、批判的思考と知るプロセスの探究についてのコースであり、特定の知識体系を学習するコースではありません。DPの中で特別な役割を担うTOKコースは、生徒が知識の性質について考察し、知識の異なる領域の間につながりをつくり、また自分のものの見方を認識すると同時に、知識を共有するさまざまな集団のものの見方について認識する機会を提供します。TOKは、DPのすべての生徒が履修する「コア」の要素のひとつであり、学校には授業時間を最低100時間割くことが義務づけられています。TOKの全体的なねらいは、「あなたはどのようにして知るのか」という問いに対する答えをさまざまな文脈で考え、この問いの価値を認識するよう生徒に促すことにあります。このことを通じて、生徒は、将来にわたって知識の豊かさに魅了されるようになるでしょう。

TOKのねらいは、以下のとおりです。

- 知識の構築に対する批判的なアプローチと、教科の学習や広い世界との間のつながりを見つける。
- 個人やコミュニティがどのようにして知識を構築するのか、その知識がどのように批判的に吟味されるのかについて、認識を発達させる。
- 文化的なものの見方の多様性や豊かさに対して関心を抱き、個人的な前提や、イデオロギーの底流にある前提について自覚をもつ。
- 自分の信念や前提を批判的に振り返り、より思慮深く、責任意識と目的意識に満ちた人生を送れるようにする。
- 知識には責任が伴い、知ることによって社会への参加と行動の義務が生じることを理解する。

II. カリキュラムモデルの概要

構成要素

「知ること」について知る

TOKは、私たちが知っていることと主張することを実際どのようにして知ることかを考察します。具体的には、「知識に関する主張」を分析し、「知識に関する問い」(knowledge question)を探究するよう、生徒に働きかけていきます。「知識に関する主張」とは、「私(たち)はXのことを知っている」や「私(たち)はYのやり方を知っている」といった断定、または知識についての主張です。「知識に関する問い」とは、知識についてのオープンな問いです。「共有された知識」と「個人的な知識」の区別は、教師がTOKコースを構成したり、生徒が「知識の性質」を探究したりする際に役立つものとして設けられています。

「知るための方法」

「知るための方法」が多数あることは間違いありませんが、TOKでは、言語、知覚、感情、理論、想像、信仰、直感、記憶という8つの具体的な方法を設定しています。生徒は多岐にわたる「知るための方法」を模索する必要があり、このうち4つを深く考察することが推奨されています。

「知識の領域」(AOK)

「知識の領域」(AOK: areas of knowledge)とは、個々の知識の分野を指します。AOKが異なれば、「知識の性質」が異なり、その知識を得るための方法論も異なると考えることができます。TOKでは8つのAOKを区別しています。数学、自然科学、人間科学(ヒューマンサイエンス)、芸術、歴史、倫理、宗教的知識の体系、土着の知識の体系です。生徒は多岐にわたるAOKを模索する必要があり、このうち6つを深く考察することが推奨されています。

III. 評価のモデル

TOKを学習した生徒は、次のような側面における力を示せるようになるでしょう。

- 「知識に関する主張」を裏づける目的で使用されているさまざまな種類の根拠を特定し、分析する。
- 「知識に関する問い」を提起し、評価し、答えようとする。
- 教科やAOKにおいて、どのようにして知識が生成、形成されるかを考察する。
- 「共有された知識」と「個人的な知識」を構成するプロセスで「知るための方法」が果たす役割を理解する。
- 「知識に関する主張」「知識に関する問い」「知るための方法」およびAOKの間のつながりを探る。
- さまざまなものの見方を認識して理解し、自分自身のものの見方に関連づけることができる。
- 実社会や現代の状況をTOKの視点から探究し、プレゼンテーションで発表する。

IV. 所定課題のサンプル

- バイアス（偏向）や取捨選択の問題があっても知識を達成することは可能であるという主張について、歴史、および他のAOK1つ以上を使って考察しなさい。
- 「データを手に入れる前に理論を構築することは致命的な過ちである。気づかぬうちに人は理論を事実にあわせる代わりに、理論にあわせて事実を歪め始めるものだ」（アーサー・コナン・ドイル）。この主張がどの程度真実かを、2つ以上のAOKを使って考察しなさい。
- 意見の不一致は、自然科学とヒューマンサイエンス（人間科学）の知識の追求にどのような方法で役立つか。

評価の概要

評価の種類	評価の形式	最終的な成績に占める割合 (%)
外部評価		
パート1： エッセイ (所定課題)	6つの所定課題から1つを選び、エッセイ1本を完成させる。	67
内部評価		
パート2： プレゼンテーション	個人または最大3人のグループで、生徒1人につき約10分間のプレゼンテーションをクラスに対して1回行う。生徒それぞれがプレゼンテーション計画書を作成する。	33

TOKの評点は、EEの評点とともに、DPの総合点に組み込まれます。TOKとEEの両方のパフォーマンスに基づいて、最大3点が授与されます。

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト (<http://www.ibo.org/diploma/>) でご覧いただけます。また、『指導の手引き』の完全版は、IBの大学・行政機関向け公式システムであるプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (<http://store.ibo.org>) でご購入いただけます。

DPが大学での成功の素地づくりにどのように貢献するかについてはIBのウェブサイト (www.ibo.org/recognition) をご覧いただくか、メール (recognition@ibo.org) にてお問合せください。